

## 今日のキーワード トルコの金融政策「3つの政策金利」

トルコ中央銀行（以下、中銀）は、主要政策金利の1週間物レポ金利を挟み、翌日物貸出金利（上限金利に相当）、翌日物借入金利（下限金利に相当）という「3つの政策金利」によるコリドー（金利レンジ）を形成して、市場金利を誘導するやや複雑な金融政策を採用しています。将来的には、「金融政策の簡素化」を進め、金利の一本化を目指していると見られます。

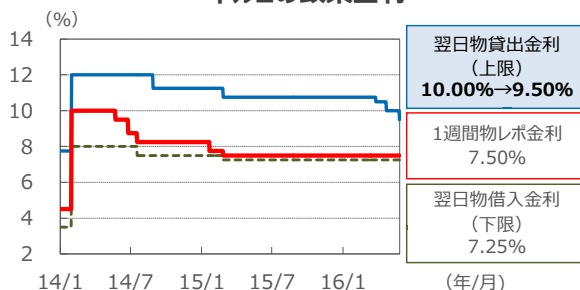
### ポイント1 上限金利を0.50%引き下げ 主要な政策金利と下限金利は据え置き

- 中銀は24日の金融政策決定会合で、金利誘導レンジ上限の翌日物貸出金利を0.50%引き下げ、9.50%とすることを発表しました。足元で景気が安定的に推移している状況下、金利コリドー幅を縮小することで、金融政策の簡素化を進めたとしています。3カ月連続の翌日物貸出金利引き下げとなりました。
- 一方、主要な政策金利である1週間物レポ金利は7.50%に、金利誘導レンジ下限の翌日物借入金利は7.25%に、それぞれ据え置きました。

### ポイント2 金融引き締め姿勢を維持 インフレ見通しを据え置き

- 金融政策決定会合で、中銀は3カ月連続で上限金利の引き下げに踏み切りましたが、金融引き締め姿勢自体は維持しました。4月の消費者物価指数は前年同月比+6.57%と、3カ月連続で低下しましたが、中銀は、コアインフレ率の改善が限定的であるとして、2016年末のインフレ見通しを7.5%に据えています。金融政策は先行きのインフレ見通しに基づいて行うとしており、今後も引き締め姿勢を継続する方針を示しました。

トルコの政策金利



(注) データは2014年1月1日～2016年5月25日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

## 今後の展開 中央銀行の信任は崩れず、トルコリラは底堅く推移しよう

### ■ 今後も翌日物貸出金利を引き下げる見込み

中銀は今後も1週間物レポ金利は据え置きながら、翌日物貸出金利を引き下げ、金利コリドー幅の縮小を続けると見えています。1週間物レポ金利の引き下げは、政権からの金融緩和圧力に屈し、中銀の独立性低下と捉えられる懸念があるからです。

### ■ 市場は新総裁のスタンスに注目

市場は、4月に交替した新総裁のチェティンカヤ氏のスタンスに注目していますが、これまでのところ前総裁の引き締め姿勢を踏襲しており、失望していません。中銀の信認が崩れず、引き締め姿勢を堅持していることで、リラは当面底堅く推移すると見られます。

ここも  
チェック! 2016年5月 2日 ブラジルの金融政策 (2016年4月)  
2016年4月21日 トルコの金融政策 (2016年4月)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。